

歯科診療所における禁煙支援の実態調査報告

2006 年 5 月

金尾好章 杉山精一 高木景子 渡辺 勝



The Japan Health Care Dental Association

日本ヘルスケア歯科研究会

はじめに

平成 15 年 5 月に『健康増進法』が施行され、その第 25 条に受動喫煙防止対策を積極的に推進することが法律として明記されたことにより、禁煙を推進する環境は年々大きく変わりつつある。『健康増進法』は、国民の健康増進の総合的な推進に関して基本的な事項を定めた法律であるが、健康保険においても平成 18 年 4 月から禁煙指導が「ニコチン依存症患者に対する医療行為（ニコチン依存症指導管理料）」として保険導入され、社会の様々な場面で禁煙を推進する環境が整いつつある。

歯科において喫煙は口腔癌、歯周病の重要な危険因子であることはすでに広く認識されており、歯科医療者が臨床において禁煙支援を行うことは重要である。とくに口腔内は、喫煙の弊害と喫煙中止の効果が患者自身に認識されやすく、喫煙習慣定着の初期段階での禁煙支援の機会も得られやすい。

日本ヘルスケア歯科研究会では歯科の団体としては最も早く平成 13 年 10 月に禁煙宣言を行い会員に対して禁煙支援の普及に努めてきた。今回、歯科診療所においてどのような方法で禁煙支援が行われているか、どの程度の実績があがっているか、そして禁煙に至った患者さんは歯科診療所での禁煙支援に対してどのように受けとめているかを調査した。禁煙支援は、従来、医療行為として位置付けられていなかったため、保健指導の一環として歯科診療所において行われ成果を挙げてきた。平成 18 年度診療報酬改定において、「疾病」として扱われるようになったため、かえって歯科診療所における生活指導・保健指導が制約される懸念が生じている。そこで今後、歯科診療所での禁煙支援をさらに効果的に推進するための情報収集を目的に調査を行った。

調査方法

1) 参加診療所

日本ヘルスケア歯科研究会に所属し、すでに禁煙支援を行っている歯科診療所を調査参加条件とした。本会ニュースレター、会員向けホームページ、メーリングリストにおいて告知して参加診療所を募り、17 歯科診療所が調査に参加した。

2) 診療所での禁煙支援方法などについての調査

各歯科診療所での禁煙支援の方法、禁煙達成者の禁煙動機などについてアンケート調査をおこなった。調査の内容は、以下のとおりである。

① 基本項目

ユニット台数、月平均レセプト枚数、歯科医師数（常勤、非常勤）、歯科衛生士数（常勤、非常勤）、受付助手数（常勤、非常勤）、開業経過年数

② 禁煙支援方法の実態

患者さんに対して喫煙の有無、過去喫煙の状況、1 日の喫煙本数、累積喫煙本数、禁煙経験についての把握方法

喫煙の害・禁煙方法などについての情報提供方法

ニコチン代替療法の過去の実施状況

禁煙支援の実施する時間（歯科治療時間内かどうか）

院内の禁煙状況、スタッフの禁煙状況、禁煙支援担当者の有無

③ 歯科診療所での禁煙達成症例についての調査

禁煙達成者とは初診時に喫煙で通院中あるいはメンテナンス中など初診後の歯科診療所通院中に禁煙したことを把握できた方とした。その後に再喫煙があっても一度禁煙したことが把握できれば対象者とした。平成 13 年から平成 17 年の来院者（初診はそれ以前でも可能）について禁煙したことを把握できた症例を調べた。

④ 禁煙達成者の禁煙の動機などについての調査

各歯科診療所で平成 13 年から平成 17 年に禁煙したことが把握できた方に対して以下の項目についてアンケート調査を行った。

禁煙時期、禁煙理由、禁煙方法、禁煙する際に歯科診療所からの情報提供や支援などがどの程度影響を与えたか、禁煙のきっかけになった方、今後歯科診療所で禁煙を積極的にすすめることについてどう思うか。

質問票（15 ページ参照）は記名式で行い返信先は各診療所としてその結果を患者名は除外して診療所でエクセルファイルに入力した。

① から ④ について調査結果を各診療所から事務局に送り診療所名を匿名化したものを集計した。

結 果

禁煙支援の状況について

今回の調査に参加した診療所の基本データは **表1** のとおりである。ユニット台数 3 台から 17 台、1 ヶ月平均患者数 100 件から 1600 件と診療所の規模にはかなり開きがある。しかし、すべての歯科診療所に常勤歯科衛生士が勤務しており、ユニット 1 台あたり平均 1 名（常勤非常勤合計）の歯科衛生士が配置されている。

実際の禁煙支援の実施状況については **表2** のとおりである。喫煙の有無、過去喫煙、1 日の喫煙本数、累積喫煙本数、禁煙経験の把握について 17 歯科診療所中 16 歯科診療所でこれらすべての項目について把握しており、その把握方法で最も多かったのは歯科衛生士の面接による方法であった。これらのことから歯科衛生士が禁煙支援の中心的役割をはたしている状況がうかがえる。

喫煙の害・禁煙方法などについての情報提供方法では、待合室に禁煙支援の図書、パンフレット、禁煙支援の掲示などを 75%以上の診療所でおこなっている。ビデオなどの映像やパーソナルコンピュータの活用も 2 歯科診療所で行われていた。

ニコチン代替療法については 53%の診療所でニコチンパッチを常備してあった。ニコチンパッチが保険適用となった 6 月以降は、状況が変化すると思われる。

表 1

調査参加診療所の属性(17 歯科診療所)			回答	
ユニット台数	3 台以下	3	常勤歯科衛生士数	
	4 ～ 5 台	7	0 人	0
	6 ～ 7 台	5	1 人	1
	8 ～ 9 台	0	2 人	3
	10 台以上	2	3 人	2
レセプト平均 件数	400 件未満	5	4 人	4
	400 ～ 600 件未満	8	5 人以上	7
	600 件以上	4	5 人以上	1
常勤 歯科医師数	1 人	9	歯科衛生士数	
	2 人	6	0.7 ～ 0.8	7
	3 人以上	2	0.9 ～ 1.0	4
開業経年数	10 年未満	3	1.1 以上	6
	10 ～ 20 年未満	7	平均	1.0
	20 年以上	7		

非常勤歯科衛生士数		歯科衛生士数(常勤+非常勤)	
0 人	8	0 人	0
1 人	4	1 人	0
2 人	2	2 人	2
3 人	1	3 人	1
4 人	1	4 人	3
5 人以上	1	5 人以上	11

すべての診療所に 2 名以上の歯科衛生士がいる
 ユニット 1 台あたり平均 1 名の衛生士が配置されている

禁煙支援の実施時間については診療時間内に実施が 82%と最も多かったが 24%の診療所では歯科治療時間とは別に行っているとの回答であった。

医療機関として常識化しつつあるが、診療所のスタッフについてはすべての診療所で全員禁煙者であり、当然診療所内も禁煙であった。

禁煙支援担当者については、職員全員との回答が最も多かった。

表 2 禁煙支援実施状況

	問診表	歯科医師が 問診	歯科衛生士が 面接	していない
喫煙の有無についての把握方法	71%	71%	76%	
「現在喫煙なし」の人に対して過去喫煙の把握方法	53%	47%	76%	6%
1 日の喫煙本数の把握方法	65%	65%	71%	0%
累積喫煙本数の把握方法	53%	47%	82%	0%
禁煙経験の把握方法	53%	47%	71%	6%

	パンフレット	待合室に掲示	待合室に書籍	ビデオなどの 映像
喫煙の害・禁煙方法などについての 情報提供方法	88%	76%	94%	12%

	院内にパッチ を用意	処方箋を発行	連携医療機関 へ紹介	実施して いない
ニコチン代替療法	53%	12%	24%	18%

	歯科治療時間内 に実施	歯科治療時間 とは別に実施	特に決めていない
禁煙支援の実施時間	82%	24%	18%

	はい
診療室は禁煙ですか	100%
医院のスタッフは全員禁煙ですか	100%

	全員	担当あり	特に決めていない
禁煙支援担当者はいますか	59%	35%	6%

歯科衛生士が主体とな
っておこなっている

禁煙症例報告数・診療所規模による症例数

診療所別症例報告数は表3のとおりである。

月のレセプト件数 400 件未満の歯科診療所で平均 14.4 件（5 年間）、400 ～ 600 件未満の歯科診療所で 26.5 件（5 年間）、600 件以上の歯科診療所で 19.8 件（5 年間）、全歯科診療所平均で 21.4 件（5 年間）であった。症例報告数は、歯科診療所の規模（患者数）にはかかわらずしも相関していなかった（図1）。

図1 禁煙症例平均（5 年間） 診療所規模別（月レセプト件数別）

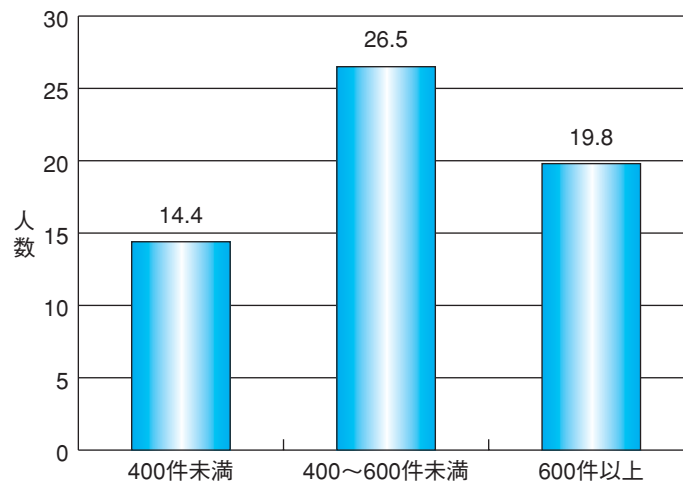


表3 禁煙支援実施状況

2001 年～ 2005 年禁煙症例数についての医院別一覧表

歯 科 診 療 所 名		診療所 1	診療所 2	診療所 3	診療所 4	診療所 5	診療所 6	診療所 7	診療所 8	診療所 9	診療所 10	診療所 11	診療所 12	診療所 13	診療所 14	診療所 15	診療所 16	診療所 17	合計	平均
2001 年～ 2005 年症例数		11	34	15	49	13	1	39	30	18	15	19	9	19	38	6	16	31	363	21.4
男女人数 比率	男性	10		13	41	13	1	14	25	10	10	17	4	9	20	3	15		205	
	女性	1		2	8	0	0	25	5	8	5	2	5	5	18	3	1		88	
禁煙時年齢	6 70 才以上	0	1	1	4	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	1	11	
	5 60 代	5	7	2	20	4	0	3	10	2	2	4	2	3	4	1	7	6	82	
	4 50 代	2	8	2	13	5	1	7	7	0	3	3	0	6	9	2	3	7	78	
	3 40 代	3	10	1	4	0	0	6	7	8	2	5	1	6	5	1	1	4	64	
	2 30 代	0	5	6	5	4	0	8	2	5	6	6	1	3	8	2	2	8	71	
	1 20 代	1	2	2	2	0	0	15	0	3	1	1	4	1	12	0	3	3	50	
	9 妊娠したので	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	2	2	0	0	1	8	
禁煙理由（複数回答）	8 経済的理由	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	0	0	5	13	
	7 歯科以外の医療機関で禁煙を勧められて	0	4	2	6	3	0	2	4	3	1	1	0	1	4	1	0	2	34	
	4 周囲の人に迷惑になるので	3	3	2	7	1	0	2	8	0	5	6	0	5	4	0	3	6	55	
	5 職場や公共の場での吸いにくい環境	2	7	3	8	0	0	2	8	3	3	6	0	2	5	1	3	5	58	
	10 その他	1	5	0	9	7	0	5	8	7	2	6	0	4	10	0	0	3	67	
	2 体の調子が悪いから	2	13	4	8	2	1	8	4	3	5	4	1	4	8	1	3	11	82	
	3 家族・知人から言われて	4	6	4	13	4	0	4	7	5	4	6	2	5	10	0	5	6	85	
	1 現在は特に異常はないが健康によくないから	2	14	5	23	5	1	7	15	8	4	7	4	11	11	3	6	15	141	
	6 歯科診療所で禁煙を勧められて	6	17	7	30	6	0	17	12	10	6	4	4	8	13	1	4	10	155	
	4 禁煙マラソン	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	
禁煙方法（複数回答）	5 併用	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	2 ニコチンガム	1	3	1	1	2	0	0	1	3	1	2	0	0	6	2	1	1	25	
	6 その他	1	6	0	6	1	0	2	3	3	0	2	0	5	4	0	0	0	33	
	3 ニコチンパッチ	0	2	7	6	0	0	9	3	0	1	4	4	4	1	0	1	4	46	
	1 自分だけが	9	23	7	41	10	1	18	22	13	11	12	5	13	28	4	15	27	259	
	6 100%	2	4	3	12	1	0	3	4	3	3	1	0	1	3	1	1	3	45	
	5 80%	2	1	2	4	0	0	0	2	4	0	1	4	6	3	1	3	3	36	
禁煙理由における歯科からの働きかけの比率	4 60%	1	5	0	6	1	0	4	3	3	1	1	2	1	8	0	3	0	39	
	3 40%	1	9	1	8	2	0	2	3	2	2	1	2	5	7	0	1	3	49	
	2 20%	1	6	2	9	3	0	6	7	2	1	1	1	2	5	0	1	2	49	
	1 0%	3	9	7	9	6	1	3	9	4	6	14	0	2	10	3	7	19	112	
	20 %以上の人比率	70%	74%	53%	81%	54%	0%	83%	68%	78%	54%	26%	100%	88%	72%	40%	56%	37%	66%	
	5 看護師など	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3	
	8 診療所スタッフなど	0	0	1	0	3	0	1	0	2	0	0	0	2	2	0	0	1	12	
禁煙のきっかけになった人（複数回答）	3 職場の人	0	3	0	1	1	0	1	2	1	0	1	1	0	2	0	0	1	14	
	10 その他	1	5	0	3	1	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	0	3	19	
	2 友人	0	6	0	5	1	1	4	3	0	3	3	2	4	6	0	2	0	40	
	4 医師	2	7	2	8	4	0	6	4	1	1	2	1	2	7	1	2	2	52	
	9 特にいない	1	3	2	6	0	0	1	9	1	3	5	1	2	6	3	4	9	56	
	6 歯科医師	5	18	0	8	2	0	8	7	8	3	1	5	6	17	2	6	5	101	
	7 歯科衛生士	6	12	3	30	4	0	7	11	11	7	3	3	7	1	1	1	7	114	
歯科診療所で禁煙を勧めること	1 家族	6	12	9	18	8	0	11	8	9	8	8	2	7	12	1	8	14	141	
	1 積極的に言うべき	10	28	11	40	9	0	16	23	13	12	13	7	14	24	4	12	24	260	
	2 よくわからない	1	6	3	8	4	0	3	5	4	2	5	2	5	6	2	4	4	64	
	3 必要ない	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	2	10	
「積極的に言うべき」の比率		91%	82%	73%	82%	69%	0%	84%	79%	76%	80%	68%	78%	74%	75%	67%	75%	80%		78%

禁煙達成者男女比・年代別人数

禁煙達成者の男女比は **図2** のとおりである。男性が多いがこれは男性の喫煙率が高いためであろう。禁煙時の年齢は **図3** のとおりである。歯科診療所では若年者から高齢者まで幅広い年代の方が通院している。今回の調査でも 20 歳代から 60 歳代まで各年代において禁煙達成者がみられる。

図2 禁煙達成者の男女比

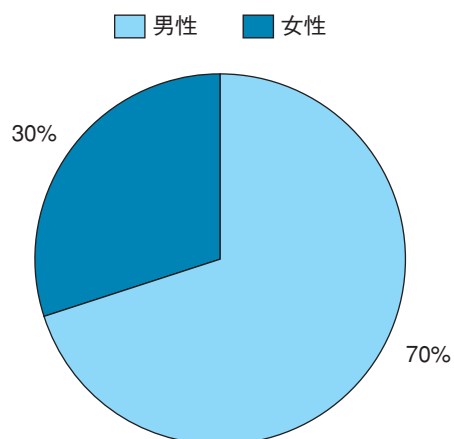
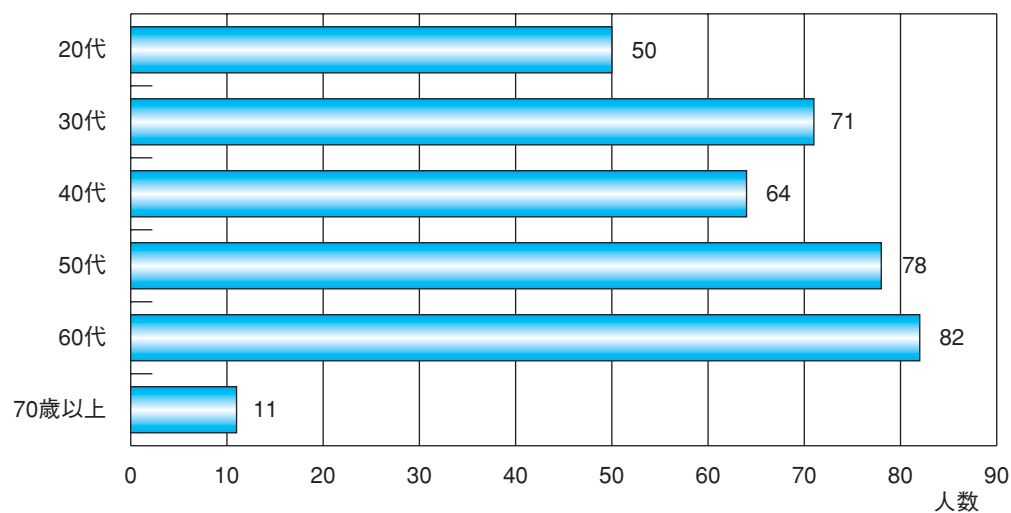


図3 禁煙時年代別人数 全診療所合計



禁煙の理由 図4

「歯科診療所で禁煙を勧められて」が最も多く、これに次いで「健康を維持するため」「家族・知人から言われて」「体調が悪いから」などが多かった。

禁煙方法 図5

禁煙方法については「自分でがまん」が363名中259名と最も多く、次にニコチンパッチが46名であった。

図4 禁煙理由（複数回答） 全診療所合計

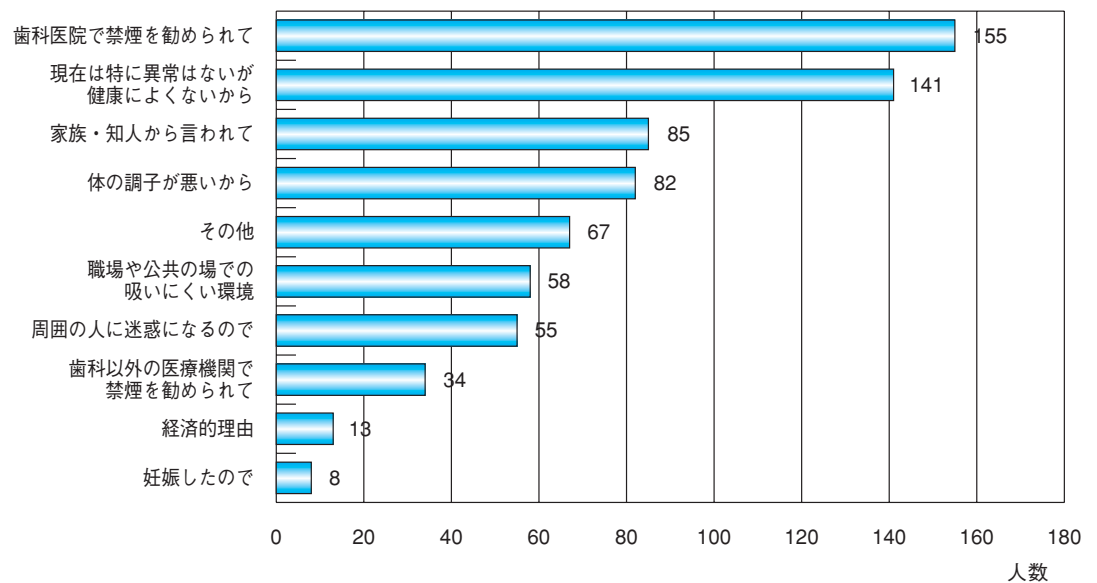
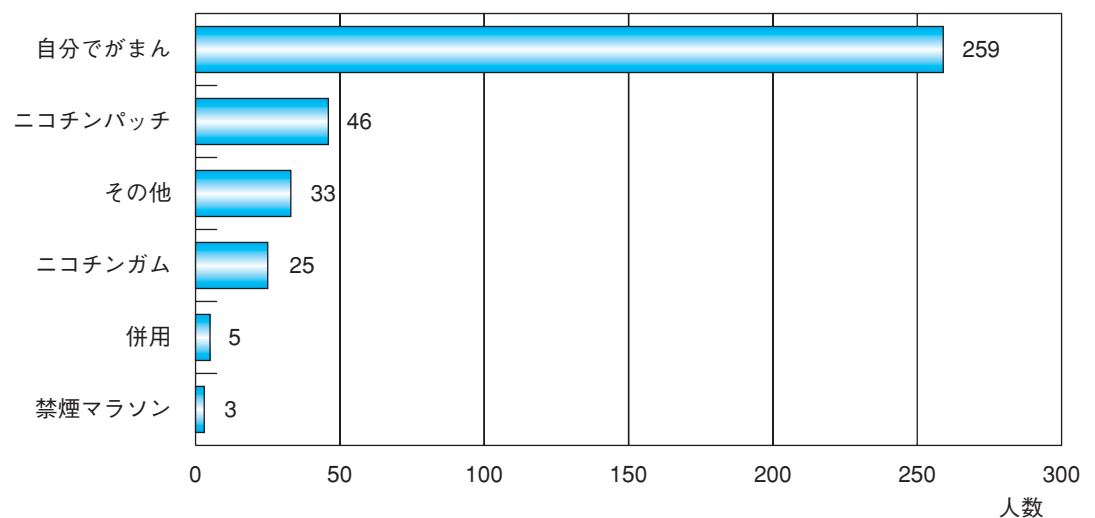


図5 禁煙方法 全診療所合計



禁煙理由における歯科からの働きかけの比率 図6

今回調査に参加した診療所は日本ヘルスケア歯科研究会の会員診療所であり、通常の主訴に対しての治療だけでなく患者さんに臨床情報をわかりやすく提供しメンテナンスをおこなっている診療所である。来院者には主訴部位の治療来院以外に定期健診とクリーニングを行うメンテナンス来院者が多いのが特徴である。従って長期間にわたり定期的に通院する方が多いのであるが、その場合に禁煙したことを把握してもどのような動機で禁煙することになったかを把握しないと本当に歯科からの禁煙支援が効果的であったのかわからない。そこで今回の調査では、禁煙をした人に対してアンケートを実施して「禁煙理由における歯科からの働きかけの比率」を0%から100%までの5段階に区分して回答してもらった。結果は禁煙達成者の66%が「歯科からの働きかけについて20%以上」と回答した（図7）。この人達の表3 診療所別年代別人数については図8のとおりである。これを見ると3つの診療所で症例数が多くなっている。この3つの診療所ではなんらかの効果的な取り組みをおこなっているものと推測されるので、今後、先進的な取り組みの事例として多くの診療所がこれらの診療所に学ぶ機会を持つようにしたい。

図6 禁煙理由における歯科からの働きかけの比率

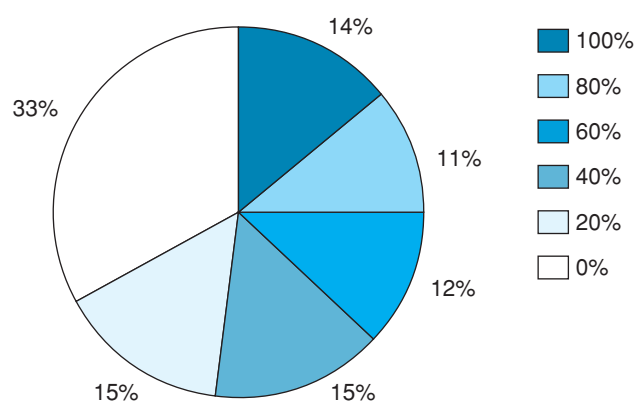


図7 歯科からの働きかけが20%以上と回答した人の年代別人数

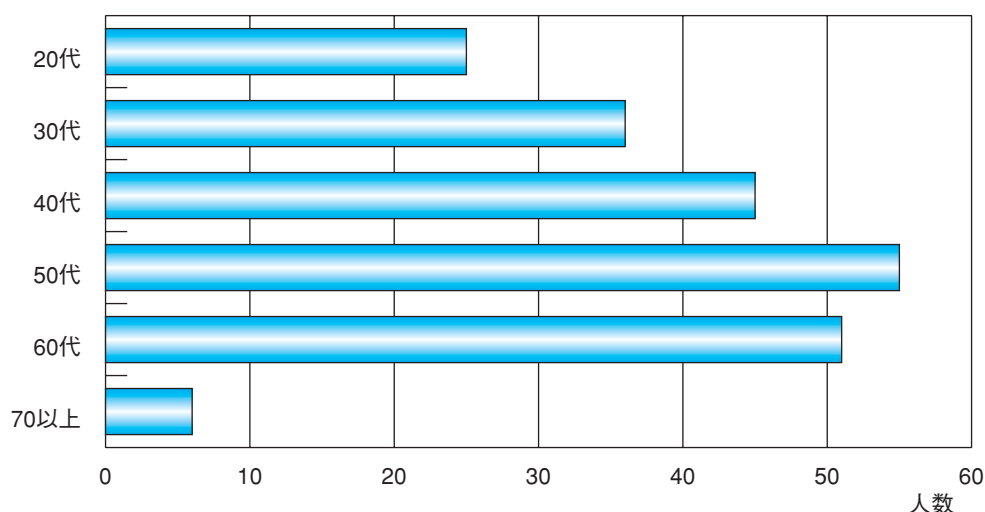
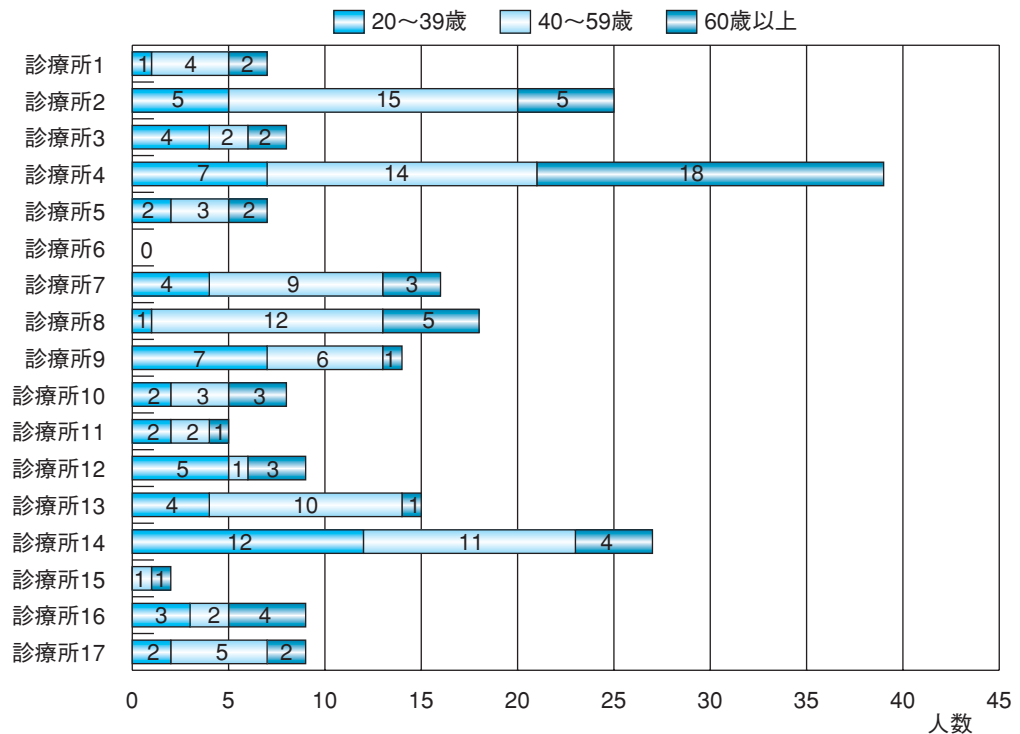


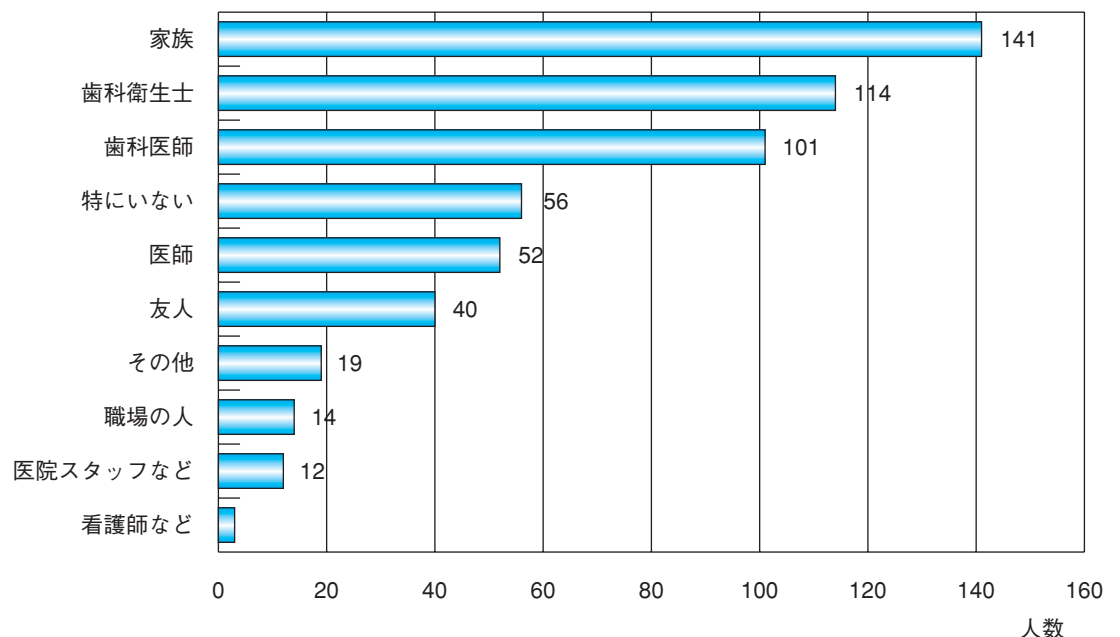
図8 禁煙にあたって「歯科からの働きかけ」が20%以上の人 診療所別 年代別



禁煙のきっかけになった人 図9

「家族」が1位で141名、次に多かったのは「歯科衛生士」114名、「歯科医師」101名であった。家族の働きかけが多いのは当然であるが、歯科衛生士が2位になっている。歯科診療所でのメンテナンス業務の中心は歯科衛生士であるのでこの結果は当然であるが、患者さんからも「きっかけになった人」として評価されていることが確認できたことは大きな成果である。今後の歯科衛生士教育、再教育の場でも禁煙支援について積極的に進めていくことが大事である。

図9 禁煙のきっかけになった人（複数回答）

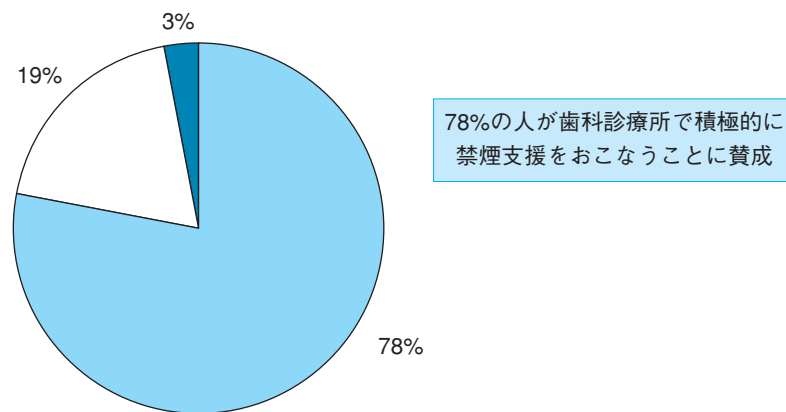


歯科診療所での禁煙支援について 図10

禁煙達成者の78%が歯科診療所で禁煙支援を「積極的に行うべき」と回答した。

図10 歯科診療所での禁煙支援

■ 積極的に行うべき □ よくわからない ■ 必要ない



考 察

今回の調査をはじめると多量の診療所が「私の診療所は症例が少ないのですが」という前置きをしてから参加の意志表明をしてきた。歯科診療所での禁煙支援の重要性は以前からいわれてきたが、歯科診療所に来院した喫煙患者さんの何人が禁煙を達成したかについて、今まで報告がなかったの、自分の診療所の実績をどのように評価していいかわからないのも当然のことと思われる。

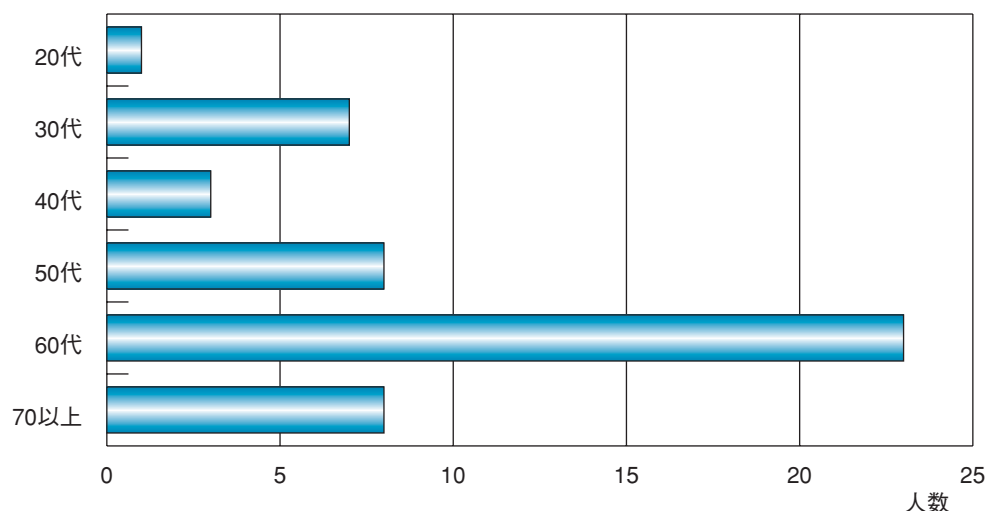
今回の調査では1診療所平均21.4件（5年間）、1年間に換算すると4.3人であった。この人数をどのように評価したらいいのであろうか。

最近の報告として千葉県が平成16、17年度の2年間にわたりモデル事業として県内2つの健康福祉センターで禁煙相談を実施した事例が報告されているので比較してみたい。

習志野健康福祉センターの実施報告書*によると、平成16年8月から平成18年2月までの1年6ヵ月間、開催回数は10回、相談者数は50名。禁煙できた者は27名で達成率54.0%であった（図11）。習志野健康福祉センターの管内は習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市で3市の合計人口は約33万人である。禁煙相談会開催の告知は市の広報紙、公共機関へのパンフレット配布、ホームページなどである。この結果を年間に換算すると1年6ヵ月間で27名の禁煙達成者なので、1年間では18人となり、0.6人/年間1万人あたりとなる。一方、今回調査に参加した歯科診療所の月平均患者数は580件、今回調査に参加した診療所は定期健診とクリーニングに年に数回定期的に通院している方が多いので、この約4倍の2500人が年間の来院者数とすると4.3人/2500人となり、17.2人/年間1万人あたりとなる。

健康福祉センターでは開催が年に数回と限られているので単純に比較することは無理があるが、禁煙外来の医師を招いて、多くの時間と職員数、広報費用などをかけて行うものと比較して、歯科診療所での禁煙支援のほうが効率的なことがわかる。

図11 習志野健康福祉センター禁煙相談 相談者年代別人数



また、歯科診療所の来院患者の特徴として幅広い年代の方が通院していることがあげられる。国民生活基礎調査の傷病別通院者率によると 20 代 30 代が通院している疾患の第一位はむし歯であり、内科などと比較して若い年代の通院者が多いのが歯科の特徴である。今回の調査でも健康福祉センターの禁煙相談者の年代別人数「習志野健康福祉センター禁煙相談者年代別人数」と比較して歯科診療所での禁煙達成者 **図3** は幅広い年代にわたっていることがわかる。今回調査に参加した診療所では多くの方が定期健診とクリーニングに通院しており、家族ぐるみの通院も多い。歯科への定期的な受診を機会に、家族の喫煙者の状況や禁煙達成者のフォローも可能である。そもそも禁煙を目的に歯科を受診する方はほとんど皆無であるが、来院するすべての人に対して喫煙の有無を問診することにより、喫煙の害や禁煙方法についての知識がない方に対して、実際に喫煙による変化が生じる口腔内の観察を通じて無理なく禁煙支援を行うことができるのが歯科の特徴である。喫煙対策は、社会のさまざまな場面で取り組んでいく必要があるが、そのような中において歯科診療所での禁煙支援が果たす役割は少なくないと思われる。

4.3 人/年間の禁煙達成者という人数を歯科診療所の臨床現場としてみた場合の問題点としては、歯科診療所で禁煙支援の中心的役割を担っている歯科衛生士が日常臨床で禁煙希望者に接する頻度が少ないことがあげられる。今回調査に参加した診療所の勤務歯科衛生士数は診療ユニット 1 台あたり 1 名であり、仮に診療所の診療ユニットが 4 台とすると歯科衛生士 1 人あたり年間 1 人の禁煙達成者となる。歯科衛生士は口腔衛生指導の専門家であるので、禁煙指導ということについては、知識を習得すれば問題なくすすめることができるが、年に 1 回の頻度となると、いざ禁煙希望者に会ったときにその後の支援方法などについて、戸惑ってしまうことが予想される。また、症例頻度の少なさから経験の蓄積がなかなか進まないことも問題である。これについては実績を積んだ歯科衛生士に学ぶ機会を設けることも効果的であると思われる。さらに、歯科で喫煙の害の説明や禁煙支援について歯科衛生士教育の中で取り入れ始めてからまだ年数が浅いこともあるので、歯科衛生士再教育のプログラムにこれらをきちんと組み込んでいくことも重要なことであると思われる。

今回の調査はすでに日常臨床において禁煙支援を行っている診療所についての報告であった。実際にこのような診療を行っている歯科診療所はまだ多くはないのが現状である。今後は多くの歯科診療所で禁煙支援を行いやすくするような社会的な環境整備が必要であり、平成 18 年度の診療報酬改定により導入された「ニコチン依存症」患者への禁煙指導のような方法が歯科診療所でも検討されていくことが必要であろう。

最後に、大変忙しいなか、過去の診療録や資料を調べ直し、患者さんにアンケート調査をおこなっていただいた 17 歯科診療所の院長、ならびにスタッフにこの場を借りて感謝を申し上げます。

* 引用文献

「平成 18 年 3 月 禁煙相談モデル事業実施報告書 千葉県習志野健康福祉センター（習志野保健所）」

質問票

禁煙患者アンケート調査

2006 年 月 日

〇〇歯科医院

_____ 様

このアンケートは、〇〇歯科医院に通院したことがある方の中で、通院中に禁煙したことを把握できた方に対して実施しています。

アンケート結果は、歯科医院での禁煙支援の普及、改善をするための研究として取りまとめます。個人情報に関しては公開いたしませんのでご協力をよろしくお願いいたします。なお、お忙しいところ恐れ入りますが〇月〇日までに同封の封筒にて返送をお願いいたします。

1. 禁煙したのはいつですか _____ 年 月 日 当時の年齢 _____ 歳（わからなければおおよそで結構です）
2. 禁煙した理由は何ですか（複数回答可）
 - 1 体に異常はないが健康によくないから
 - 2 体の調子が悪いので
 - 3 家族・知人から言われて
 - 4 周囲の人に迷惑になるので
 - 5 職場や公共の場での吸いにくい環境
 - 6 歯科医院で禁煙を勧められて
 - 7 歯科以外の医療機関で禁煙を勧められて
 - 8 経済的理由
 - 9 妊娠したので
 - 10 その他（ _____ ）
3. 禁煙方法は何でしたか
 - 1 自分でがまん 2 ニコチンガム 3 ニコチンパッチ 4 禁煙マラソン
 - 5 併用（ _____ と _____ ） 6 その他（ _____ ）
4. 禁煙する際に歯科医院からの情報提供や支援などは、どの程度の影響でしたか
 - ① 0%（禁煙に歯科医院は関係なかった） ② 20% ③ 40% ④ 60% ⑤ 80%
 - ⑥ 100%（禁煙のきっかけ、実行できたのはすべて歯科医院の影響）
5. 禁煙のきっかけとなった方（あなたに禁煙をすすめてくれた方）は誰ですか（複数回答可）
 - 1 家族 2 友人 3 職場の人 4 医師 5 看護師など 6 歯科医師
 - 7 歯科衛生士 8 医院スタッフ 9 特にいない 10 その他（ _____ ）
6. 歯科医院で禁煙を勧める（情報提供や禁煙支援を行う）ことをどのように思いますか
 - 1 積極的に行うべき 2 よくわからない 3 必要ない

ご協力どうもありがとうございました

歯科診療所における禁煙支援の実態調査報告
2006 年 5 月

日本ヘルスケア歯科研究会
東京都文京区関口 1-45-15
Tel 03-5227-3716 Fax. 03-3260-4906

©Printed in Japan